

検査専門クリニックの事前チェックや当日チェックのワークフロー

○クリニックの特色

検査機器構成 MRI 2台(1.5テスラ)・CT 1台(64列)

病院、医院に依頼書(問診票)を郵送し、予約は電話受付

依頼書の書式は検査内容、検査リスクを記入

○予約から検査までにできること

事前チェックでは情報の少なさを補うため、電話対応、依頼書から情報収集を行う

当日チェックでは来院時にしか判明しないことを中心に問診、診察の流れ

○事前チェックの問題点

長期予約(一年)の場合、依頼書作成時の情報と来院時の情報で異なることが多々ある

○当日チェックの問題点

当日チェックでの検査不可は、患者側の時間的、経済的損失が発生する

当日チェックでの検査不可は、トラブルに発展することが多い

○4段階の検査安全管理手順

手順は大きく分けて4段階

①予約時チェック→②依頼書チェック→③検査前日チェック→④検査当日チェック→

時間経過	依頼施設	情報	4段階チェック
予約日	電話予約 ※依頼書作成 問診票記入(患者)	電話(依頼医師) 電話(患者)	① 予約時チェック
数日 ~ 数ヶ月	依頼書FAX送信	依頼書(検査リスク項目) 電子カルテ 過去の検査画像	② 依頼書チェック
検査前日		依頼書(検査リスク項目) 電子カルテ 過去の検査画像	③ 検査前日チェック
検査当日	問診票持参(患者)	会話(患者) 観察(患者) 問診票回収	④ 検査当日チェック

※当院書式の依頼書(依頼医師が検査内容、検査リスクを記入)

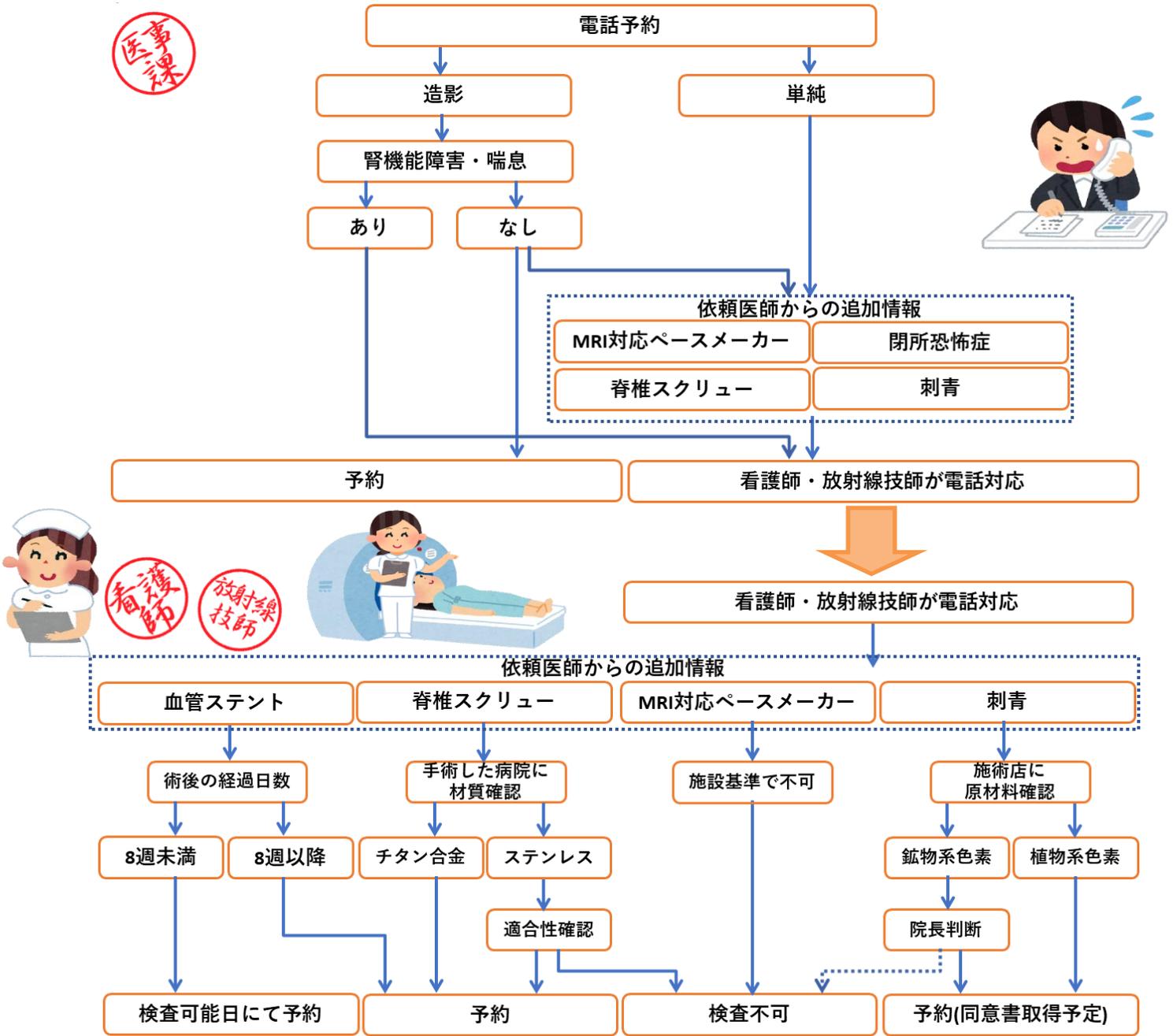
① 予約時チェック

☑ポイント：医事課が造影剤リスク確認、その他リスクが分かれば専門部署が対応

時間経過	依頼施設	情報	チェック部署
予約日	電話予約 依頼書作成 問診票記入(患者)	電話(依頼医師) 電話(患者)	医事課 看護師 放射線技師

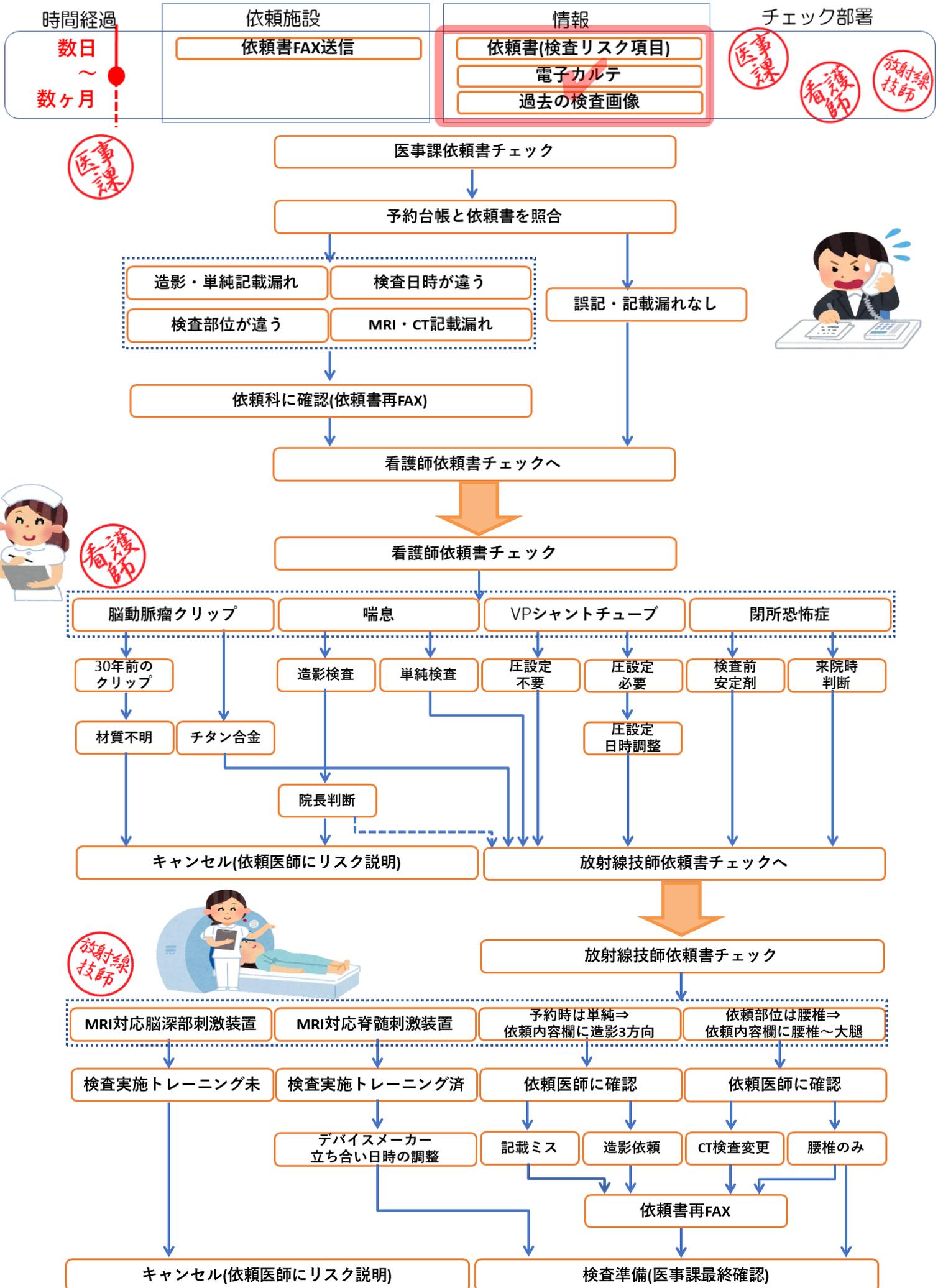
医事課
チェック項目

- 造影剤リスク確認(腎機能障害、喘息、アレルギー)
- 医療用デバイス確認(ペースメーカー、人工内耳)
- 造影検査で腎機能障害、喘息、アレルギーがある場合、専門部署に電話転送
- 体内金属、医療用デバイス、刺青の申告があった場合、専門部署に電話転送



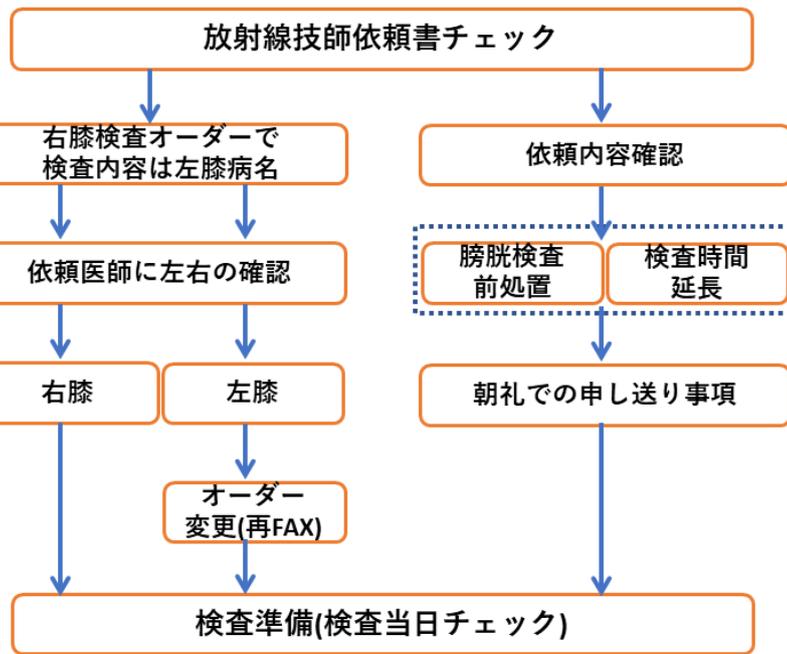
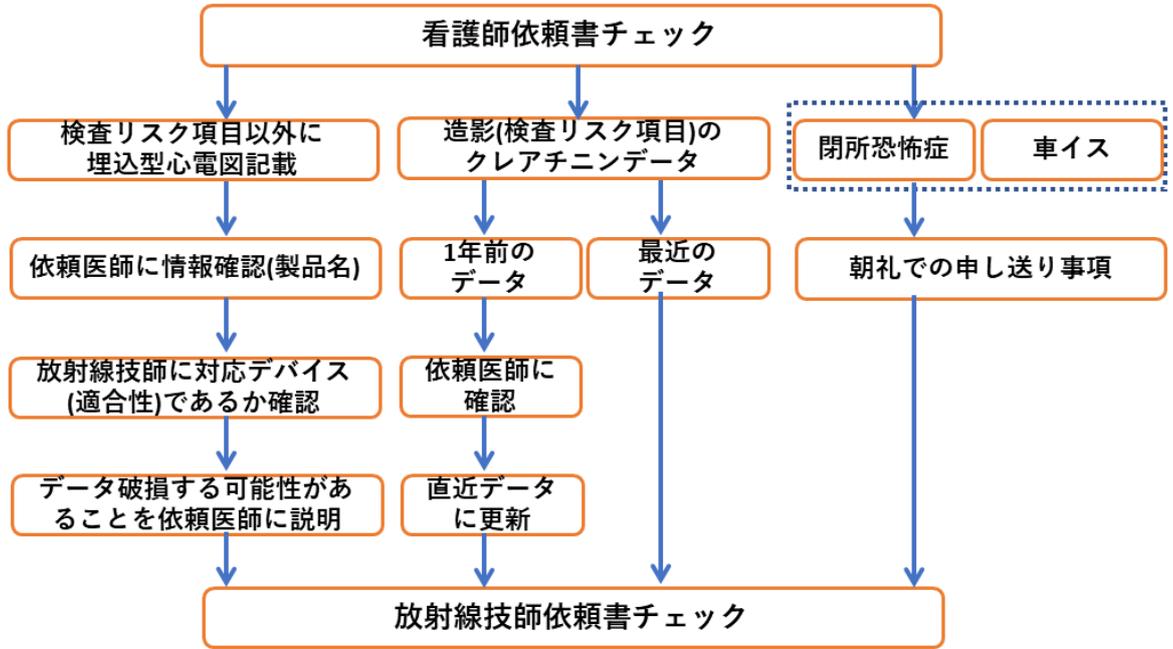
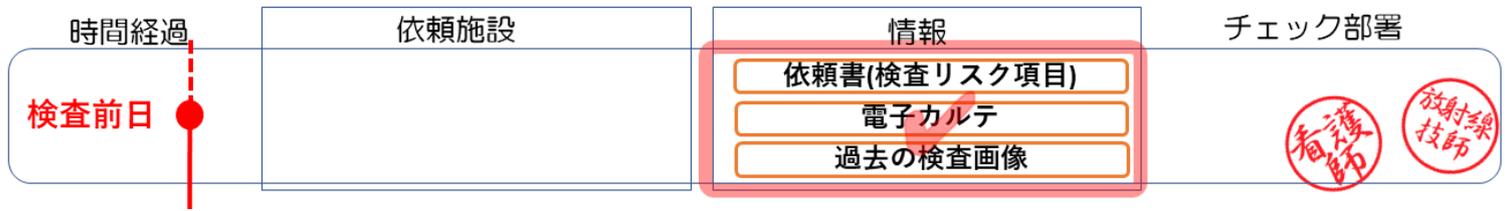
②依頼書チェック

☑ポイント：専門領域に応じた内容確認、記載事項漏れ、誤記などをチェック



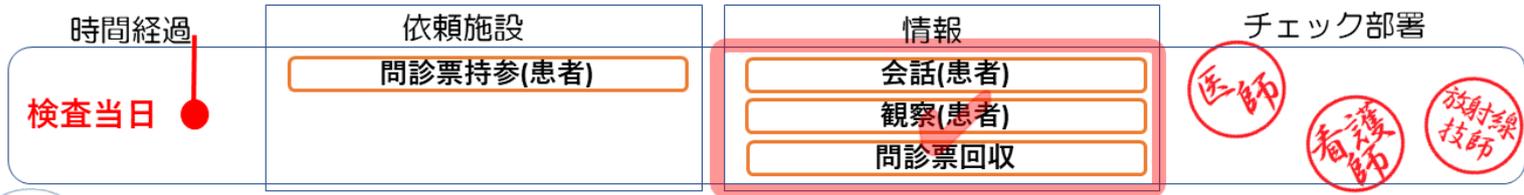
③検査前日チェック

☑ポイント：依頼書の再確認と翌日検査に必要な申し送り事項確認

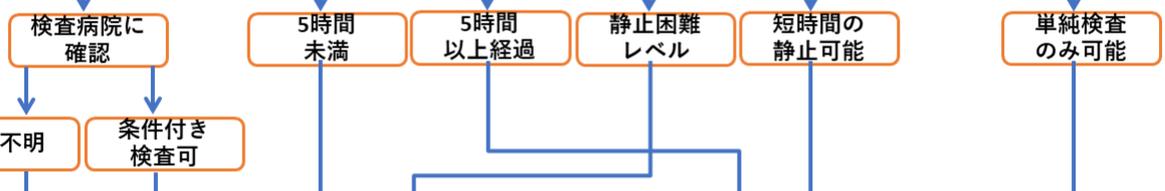


④検査当日チェック

☑ポイント：来院時にしか判明しない直近情報を主とした問診・診察

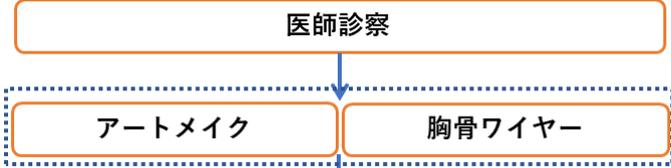
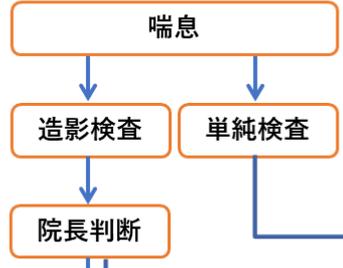


看護師事前問診



検査不可(本日の中止理由説明) 医師診察

安全が確認できれば再予約



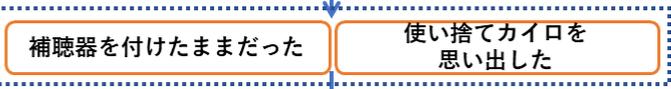
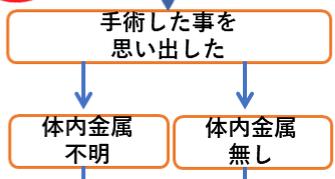
リスク説明
検査同意書取得

依頼医師にリスク説明 検査準備(更衣室)

単純検査に変更 検査不可(中止理由説明) 看護師・放射線技師による直前問診



看護師・放射線技師による直前問診



はずした事を確認

検査不可(本日の中止理由説明) 検査室案内(氏名と検査部位確認)

安全が確認できれば再予約 MRI検査開始

○まとめ

検査不可(キャンセル)の迅速な判断は患者側の時間的、経済的損失を少なくできる
 事前チェックのメリットは検査の安全性確保と当日検査不可のトラブル回避にもなる
 職種 of 専門性を生かしつつ、場合によっては職域のオーバーラップも必要

時間経過	予約から検査までにできること
予約日 	情報不足を補うため、予約電話でリスクを収集 懸念されるリスクがある場合は依頼医師(患者)に確認 ※検査不可の判断は患者側の時間的・経済的損失なし
数日 ~ 数ヶ月 	依頼書の検査リスク項目と依頼内容を確認 不明な点、懸念されるリスクがある場合は依頼医師に確認 ※キャンセルは患者側の時間的・経済的損失発生(トラブルに発展する割合は低い)
検査前日 	検査までの期間が長期(一年)の場合、依頼書作成時とは異なる病状変化も考慮 検査当日に備え、情報収集すべきポイントをまとめておく ※キャンセルは患者側の時間的・経済的損失発生(トラブルに発展する割合は高い)
検査当日 	来院時にしか判明しない直近情報を中心に収集 懸念されるリスクがある場合は依頼医師と相談し、場合によっては中止の判断 ※検査中止は患者側の時間的・経済的損失甚大(トラブルに発展する事が多い)

.....参考資料としてお考え頂けたらと思います